

なんでもない日を、ちょっと特別に

なんで6月は休みがないの？意外と知らない理由

6月は梅雨の時期に入り、雨の日が続くと気分もどんよりしてしまいますよね。そんな中、「どうして6月だけ祝日がないの？」と疑問に思ったことはありませんか？

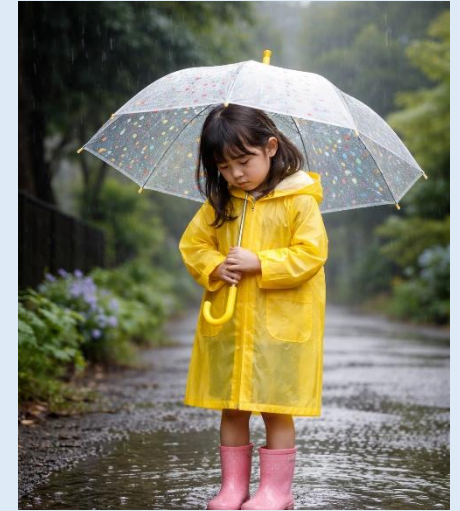
実は、日本の祝日はただ休むための日ではなく、意味のある日選ばれて決められています。たとえば、昔の大切な出来事や、季節の節目、自然に感謝する日などです。こうした考えをもとに、国民の祝日に関する法律で祝日が定められています。

しかし6月には、「これは全国みんなでお祝いしよう」と決めやすい出来事や記念日がありませんでした。そのため、祝日として選ばれる日がなかったのです。

さらに、祝日は1年のバランスも考えて配置されています。5月にはゴールデンウィークがあり、長い休みが続きますよね。そして7月には海の日があります。このように前後の月に祝日があるため、6月にまで祝日を入れると休みがかたよってしまうのです。

また、6月は梅雨の時期で、昔の人にとっては田んぼや畑の世話がとても大切な時期でした。雨を利用して作物を育てるため、休みよりも作業が優先されていたとも考えられています。

つまり、6月に祝日がないのは、「記念日が少なかったこと」「1年のバランス」「昔の暮らしの都合」といった理由が重なっているからです。少し残念ですが、その分、体を休めたり、自分の時間を大切にしたりする月にするのもいいかもしれませんね。



梅雨時期に突入
しましたね。



管理課 石井